ヤブスゲ　*Carex rochebrunii* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。やや低湿地性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 40～60cm、3 稜があり、基部の葉鞘は黒褐色である。葉は細い線形、幅 2～4mm である。果期は 5 月、小穂は 8～10 個、無柄、長楕円形、長さ 8～15mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、長さ 4～4.5mm、無毛、先端は次第に細まり、やや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

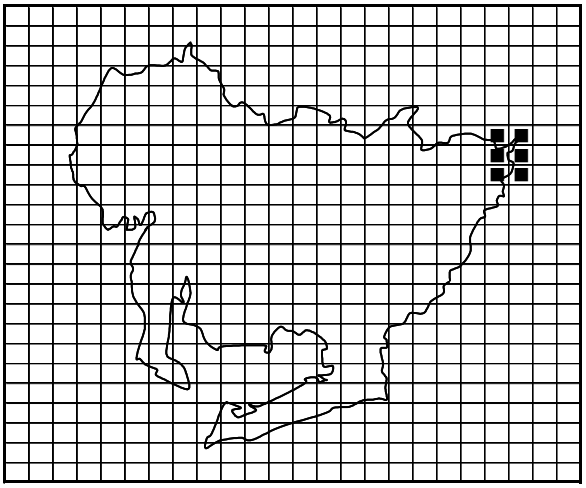
【分布の概要】

【県内の分布】
東：1 富山（芹沢 87076, 2011-6-5）。

【国内の分布】
本州および四国。

【世界の分布】
日本、中国大陸中南部、ヒマラヤ、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低湿地の林内に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地	○			
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に、小群落がある。このような環境はダムができる前、あるいはできた直後にはなかったものであり、本種は同所に生育するタコノアシ、ヌマガヤツリなどと共に、比較的近年になって侵入・定着したものと思われる。ただし、現地は近年シカの食害が著しく、不嗜好植物であるナガバヤブマオの群落と化している。この状況を考慮すれば、補正項＋1（シカ食害）を加え、総点 16、絶滅危惧ⅠＡ類と評価する方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

ニホンジカの食害は、近年生物多様性に対する最大の脅威の一つになっている。個体数調整を急ぐ必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.260, 平草本Ⅰp.166, 平新版 1 p.305, SOS 旧版 p.106.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.64. 文一総合出版, 東京.